

AERA  
特別広告企画

'12年7月2日号「AERA」掲載!  
映画『ダークナイト ライジング』徹底検証  
《現代を占う6つの予言》

ダークナイト ライジング

その男はヒーローではない!?  
『インセプション』の監督最新作  
『ダークナイト ライジング』を観る前に

伝説が、壮絶に、終わる。



「インセプション」監督最新作

ダークナイト ライジング

7.28(土)

各界著名人のコメント続々! ダークナイト

検索

[www.darkknightrising.jp](http://www.darkknightrising.jp)

IMAX® is a registered trademark of IMAX Corporation. TM & © DC Comics

LEGENDARY



WARNER BROS. PICTURES  
©2012 Warner Bros. Entertainment Inc. All Rights Reserved.

その男はヒーローではない!?

# 舞い降りた “闇の騎士”は 混沌の時代の 予言者だ

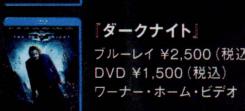
シリーズ最終章『ダークナイト ライジング』が、7月28日に日本公開される。昨年12月にiTunesで解禁された予告映像は、24時間で1250万回がダウンロードされ、1月発売の先行上映の前売りは全米で瞬く間に完売。注目の最新作を前に、アエラスタイルマガジンがその魅力を徹底検証した。

アエラスタイルマガジン編集長 山本晃弘



女性から「バットマンはどこのが惑星から来たの?」と問われたことがある。いやいや、それはスーザン…。バットマンの正体は、若き富豪ブルース・ウェイン。異星人でも超能力者でもないブルースは、ゴッサムシティを悪から守るために、肉体を鍛えている。それでも、高所から飛び降りれば足を痛め、傷ついた肉体に苦痛の表情を浮かべる。そうしたアリアティは、男性ファンの熱い支持を集めめた一方で、ヒーローを求める女性には残念ながら伝わりにくかったのかもしれない。

「ダークナイト」を観たときの戦慄は、今も忘れられない。バットマンの宿敵ジョーカーを演じたヒース・レジャーが公開直前に亡くなつたこともあって、スクリークンの中で起きていることが、リンクで迫ってきた。強盗に入った銀行で、分け前を増やすためにその場で仲間を次々と撃ち殺すジヨーカー。あるいは、爆破して炎上する病院の前をフラフラと歩くろしくも哀れな姿が、ヒリヒリと描き出される。



下記写真 1,2 「ダークナイト ライジング」  
3,4,6 「ダークナイト」 5 「バットマン ビギンズ」

前々作『バットマン ビギンズ』から監督を務めるクリストファー・ノーランが描くリアリズムは、登場人物だけにとどまらない。疲弊した経済、警察や検察の暗部。映画の中のゴッサムシティは、私たちの生きるこの世界を予言しているように見える。そういうえば前作は次のように言葉で締めくくられている。「彼はヒーローではない。沈黙の守護者。我々を見守る監視者である」――。

さて、7月に公開される最新作『ダークナイト ライジング』。私の手元にあるのは、「伝説が、壮絶に、終わる」というコピーだけ。いつたい、どんな世界の終焉が予言されるのだろうか。



## 3 アメリカの若さを諭しつつ寄り添うしたかな英國

マイケル・ケインが演じる、執事のアルフレッド。イギリス英語に皮肉を交えながらブルースに従う。焼失したウェイン邸が改修中の前作でも、高層ビルのペンハウスでの変わらぬ忠実ぶりで微苦笑を誘う。対テロを含め、国際関係でアメリカに追随する英国の象徴か。

## 2 「正義」という名のテロ。カルトがたくらむ暴力の連鎖

両親を殺されたブルースは、悪の本質を追究すべく、カルト的な「影の同盟」に参加。だが、犯罪者を私的に制裁する彼らと決裂、悪を憎んでも殺さぬスタンスに9.11以降続く、憎悪と報復の連鎖へのアンチテーゼと言える。果たして新しい敵ペインはどう立ち向かうのか。



## 6 ブーチン、サルコジ、橋下。リーダーシップは万能なのか

ゴッサムシティにはびこる悪を一掃すべく、果敢に犯罪者に対する検事ハビードント。その剛腕ぶりは市民から称賛の的。だがジョーカーの策略にはまり、自らが悪へと転落する。力強いがもろい正義は、わかりやすいリーダーシップを持つ危うさへの警鐘か。



## 5 技術とプライドを持つベテランの復権が活力に

ブルースの父の会社はマネーボームの対象となり、古参社員ウォッカスは開職に追いやられていた。だが「影の同盟」脱退後、社長になったブルースは、彼の卓越した技術力を買い、第一線に抜擢する。現場主義への回帰は、リーマンショック以降の企業人事を予見。



前2作を超える衝撃!  
最新作『ダークナイト ライジング』は  
絶対に見逃せない映画だ

提供:ワーナー・ブラザース映画

[www.thelegendends.jp](http://www.thelegendends.jp)

リアルな世界観から生まれた「現代を占う6つの予言」

- 1 昼も夜も闘うCEO
- 2 テロを倒す暴力が生むテロ
- 3 イギリスとアメリカの蜜月
- 4 欲望なき「悪」の犯罪
- 5 現場キャリア組の復権
- 6 力強いリーダーの台頭